

新型コロナウイルス感染症予防接種についての説明書

新型コロナウイルスワクチンについて

令和6年度より、新型コロナウイルス感染症は予防接種法のB類疾病に位置付けられました。予防接種を行うことにより、発症予防や重症化（入院）予防の効果があることが国内外の複数の報告で確認されています。また、既感染者であっても再感染する可能性があり、また、ワクチン接種による追加の発症予防効果が得られることも確認されています。

《予防接種に行く前に確認してください》

■予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかに発熱のある人（一般的に体温が37.5度以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③ 予防接種の接種液でアナフィラキシーショックなど重度の過敏症の既往歴のある人
※アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせるような複数の症状
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した人

■予防接種要注意者

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状が現れたことのある人
- ③ 過去にけいれんの既往のある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤ 抗凝固療法を受けている人、血小板減少又は凝固障害のある人

《予防接種を受けた後の注意事項》

- ① 接種後24時間は副反応の出現に注意しましょう。特に接種直後30分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ② 予防接種当日（接種後1時間経過後）の入浴は差し支えありません。
- ③ 接種後は、接種部位を清潔に保ち、過激な運動、大量の飲酒は、それ自体で体調の変化を来す恐れがあるので、接種後24時間は避けましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常反応や体調変化を訴える場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

【副反応について】

接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽症又は中程度であり、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められてないと判断されています。また、国内において重篤な副反応としてアナフィラキシーが報告されており、接種後30分はその場で健康観察をすること並びに接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は医療機関の受診が必要です。

○必要性や副反応についてよく理解したうえで受けましょう。

○気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に質問しましょう。

○十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

○予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

その他、ご不明な点はお問い合わせください。